

世界高配当株セレクト（目標払出し型） 年2回決算・為替ヘッジありコース

追加型投信／内外／株式

受益者の皆さまへ

毎々格別のお引き立てに預かり、厚くお礼申し上げます。

さて、ご投資いただいております「世界高配当株セレクト（目標払出し型）年2回決算・為替ヘッジありコース」は、2019年5月27日に第13期決算を行いました。

当ファンドは、主として投資信託証券への投資を通じてクロッキー高配当世界株指数（円ヘッジ・ベース）から得られる総合収益の獲得を目指して運用を行います。分配を通じて運用資産の一部を定期的に払い出します。当作成対象期間につきましても、これに沿った運用を行いました。ここに期中の運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

作成対象期間 2018年11月27日～2019年5月27日

第13期	決算日：2019年5月27日	
第13期末 (2019年5月27日)	基準価額	12,272円
	純資産総額	474百万円
第13期	騰落率	1.6%
	分配金合計	251円

(注1) 騰落率は分配金再投資基準価額の騰落率を表示しています。
(注2) △（白三角）はマイナスを意味しています（以下同じ）。

当ファンドは投資信託約款において、運用報告書（全体版）を電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書（全体版）は、下記のホームページにアクセスし、「基準価額一覧」等から当ファンドの名称を選択いただき、ファンドの詳細ページから閲覧、ダウンロードすることができます。また、運用報告書（全体版）は受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

■運用報告書に関するお問い合わせ先

コールセンター **0120-104-694**

（受付時間：営業日の午前9時から午後5時まで）

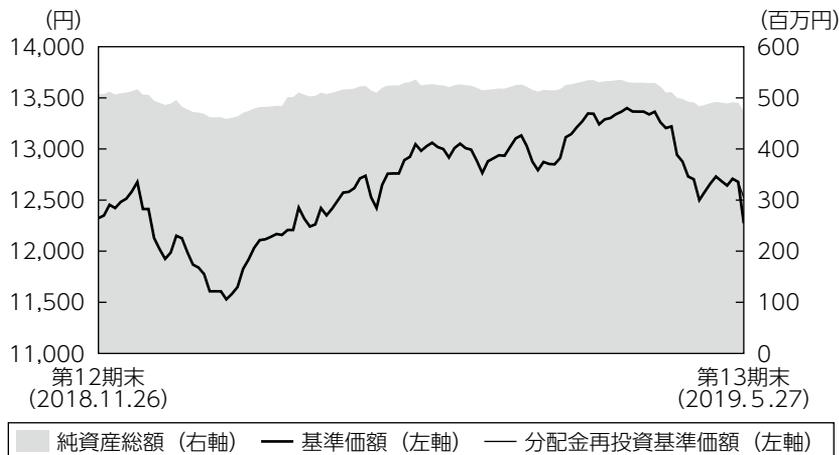
お客さまのお取引内容につきましては、購入された販売会社にお問い合わせください。

アセットマネジメントOne 株式会社

東京都千代田区丸の内1-8-2 <http://www.am-one.co.jp/>

運用経過の説明

基準価額等の推移



第13期首：12,323円
 第13期末：12,272円
 (既払分配金251円)
 騰落率：1.6%
 (分配金再投資ベース)

- (注1) 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。
- (注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまが利用するコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- (注3) 分配金再投資基準価額は、期首の基準価額に合わせて指数化しています。
- (注4) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示してあります。
- (注5) 当ファンドはベンチマークを定めておりません。

基準価額の主な変動要因

当ファンドは、ケイマン諸島籍の外国投資信託「シンコウ・グローバル・エクイティ・ファンド（J P Yヘッジド）－Bクラス」（以下「エクイティファンド（ヘッジあり）B」といいます。）と国内投資信託「国内マネー・マザーファンド」（運用：いずれもアセットマネジメントOne株式会社）を投資対象とするファンド・オブ・ファンズの形式で運用を行いました。

エクイティファンド（ヘッジあり）Bは、運用にあたってドイツ銀行ロンドン支店を取引相手とする担保付スワップ取引により、日本を含む世界の高配当株投資戦略の運用成果を反映するクロッキー高配当世界株指数のひとつである「高配当株戦略指数（円ヘッジ・ベース）」に実質的に投資しました。

12,323円でスタートした基準価額は米中関係の悪化などを背景に年末にかけて下落し、2018年12月28日には期中安値となる11,529円をつけました。その後、2019年4月18日には13,400円まで上昇しましたが5月の大型連休以降に再び軟調となり、12,523円で期末を迎えました。（分配金込み）

当期間の基準価額は200円（分配金込み）の値上がりとなりましたが、その内訳はおおよそ表のとおりとなります。実質的な投資資産の価格変動（403円）が最大の値上がり要因となりました。

内 訳 (概 算)	当 期
A 実質的な投資資産の価格変動	403円
B 為替レートの変動	△56円
C 信託報酬等	△119円
D その他の要因	△29円
E 当期の純損益 (A + B + C + D)	200円
F 分配金	△251円
基準価額の騰落額 (E + F)	△51円

- ・「A 実質的な投資資産の価格変動」は、当期中における高配当株戦略指数の構成銘柄の変動率を基に算出したものです。
 - ・「B 為替レートの変動」は、当ファンドが実質的な投資対象とする高配当株戦略指数の変動率から実質的な投資資産の変動率を差し引いた値を基に算出しております。
 - ・「C 信託報酬等」は、当ファンドで支払う信託報酬等および外国投資信託の信託報酬等が含まれます。
 - ・「D その他の要因」には、外国投資信託の売買執行タイミングで生ずる雑損益や売買コストなどが含まれます。
- ※上記の数値は「簡便法」により計算しておりますので、実際の数値とは異なります。したがって、あくまで騰落額の要因を知るための目安としてお考えください。各項目の数値は単位未満四捨五入しております。

1万口当たりの費用明細

項目	当期		項目の概要
	(2018年11月27日 ～2019年5月27日)		
	金額	比率	
(a) 信託報酬	80円	0.635%	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 期中の平均基準価額は12,593円です。
(投信会社)	(24)	(0.188)	投信会社分は、信託財産の運用、運用報告書等各種書類の作成、基準価額の算出等の対価
(販売会社)	(54)	(0.431)	販売会社分は、購入後の情報提供、交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価
(受託会社)	(2)	(0.016)	受託会社分は、運用財産の保管・管理、投信会社からの運用指図の実行等の対価
(b) その他費用	0	0.002	(b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
(監査費用)	(0)	(0.002)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査にかかる費用
合計	80	0.637	

(注1) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。なお、その他費用は、このファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

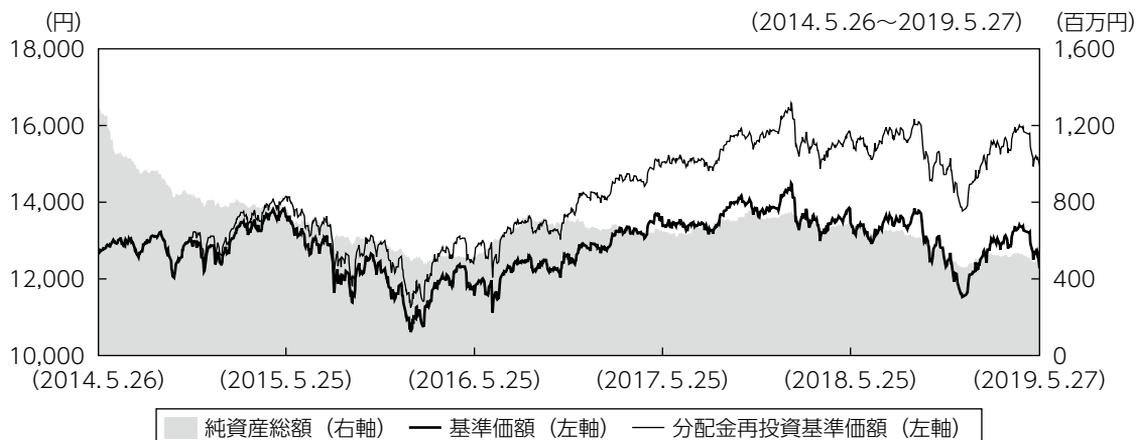
(注2) 金額欄は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。項目ごとに小数点以下第4位を四捨五入してあります。

(注4) 各項目の費用は、このファンドが組入れている投資信託証券（マザーファンドを除く）が支払った費用を含みません。

(注5) 当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」が取得できるものについては組入ファンドの概要に表示することとしております。

最近5年間の基準価額等の推移



- (注1) 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまが利用するコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- (注3) 分配金再投資基準価額は、2014年5月26日の基準価額に合わせて指数化しています。

		2014年5月26日 決算日	2015年5月25日 決算日	2016年5月25日 決算日	2017年5月25日 決算日	2018年5月25日 決算日	2019年5月27日 決算日
基準価額 (分配落)	(円)	12,666	13,630	11,566	13,383	13,458	12,272
期間分配金合計 (税引前)	(円)	—	502	501	494	525	526
分配金再投資基準価額の騰落率	(%)	—	11.7	△11.5	20.2	4.5	△4.9
参考指数の騰落率	(%)	—	14.3	△10.0	23.7	6.9	△3.1
純資産総額	(百万円)	1,254	761	503	645	667	474

- (注1) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示してあります。
- (注2) 純資産総額の単位未満は切り捨てて表示してあります。
- (注3) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。
- (注4) 当ファンドはベンチマークを定めておりません。参考指数は高配当株戦略指数 (円ヘッジ・ベース) です。参考指数については後掲の〈当ファンドの参考指数について〉をご参照ください。参考指数は投資対象資産の相場を説明する代表的な指数として記載しているものです。
- (注5) 参考指数は、基準価額への反映を考慮して、現地前々営業日の終値を採用しています。

投資環境

当期間の世界株式市場について、米国、欧州は上昇する一方、日本は下落しました。

●米国株式市場

米国株式市場は、期初、政策金利の引き上げによる景気への影響が懸念され大幅下落で始まりました。しかし、年明け後、パウエルF R B（米国準備制度理事会）議長からの利上げ休止示唆、米中貿易協議の進展期待、予想を上回る企業業績などを背景に反転、上昇局面となりました。5月に入り、米中関係の悪化（2,000億ドル相当の中国からの輸入品に対する関税率の引き上げ）により、軟調となりました。

●欧州株式市場

欧州株式市場は、期初、イタリア政府が予算案の修正について欧州委員会に譲歩したことや英メイ首相の党首不信任投票が否決されたことなどプラス材料はあったものの、米国発の株安に引きずられる形で下落しました。年明け後、米中貿易協議の進展期待、堅調な企業業績、ブレグジット（英国の欧州連合離脱）の延期などを背景に反転、上昇局面となりました。5月に入り、米中関係の悪化や英メイ首相辞任報道などブレグジットを巡る混乱から軟調となりました。

●日本株式市場

日本においては、期初、世界経済の減速リスクが意識される中、米国株急落に伴う海外投資家からの売りが急増、大きく下落しました。年明け後、米国株式市場の堅調、米中貿易協議の進展期待、為替の円安などを背景に反転しました。しかし、4月に入って、下旬からスタートする大型連休を控えての様子見や消費税増税への懸念などから上値は抑えられました。新元号となった5月以降、米中関係の悪化による世界経済や企業業績の減速懸念が広がり軟調となりました。

●外国為替市場

外国為替市場では、円が米ドルやユーロに対して上昇する展開となりました。米ドル円は112円台半ばから始まり109円台後半の円高米ドル安、ユーロ円は128円台半ばから始まり122円台前半で第13期末を迎えました。

米ドル円は2018年末にかけて世界的な株安、景気減速を巡る懸念、政府機関の一部閉鎖といった米国の政治動向への不安感などから円高となりました。年明け後、米国株式市場の回復によりリスク回避の動きが和らぎ、米ドルの下落幅は徐々に縮小しました。米中貿易協議の進展期待などから戻り幅が強まる局面もありました。

また、ユーロ円は2019年2月まで米ドル円同様の動きとなりましたが、3月以降、ユーロ圏の経済指標に冴えないものが目立ったことに加え、E C B（欧州中央銀行）ドラギ総裁が景気下振れリスクに言及したことなどから円高圧力が強まりました。

●国内短期金融市場

期中の国庫短期証券3ヵ月物利回りは、日本銀行が緩和的な金融政策を継続したことなどからマイナス水準で推移しました。

■ ポートフォリオについて

● 当ファンド

当期間を通じてエクイティファンド（ヘッジあり）Bを主として高位に組み入れ、期末時点の組入比率は96.8%としました。

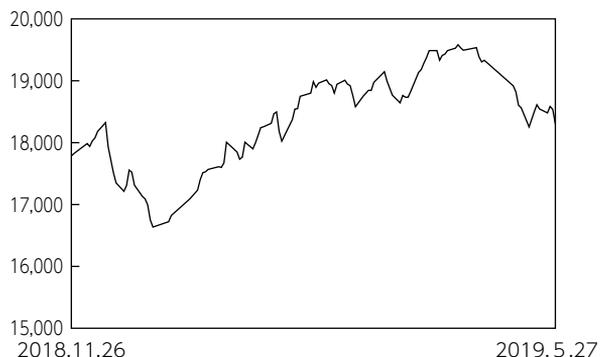
● エクイティファンド（ヘッジあり）B

主として担保付スワップ取引への投資を通じて、高配当株戦略指数（円ヘッジ・ベース）から得られる総合収益の獲得を目指して運用を行いました。

● 国内マネー・マザーファンド

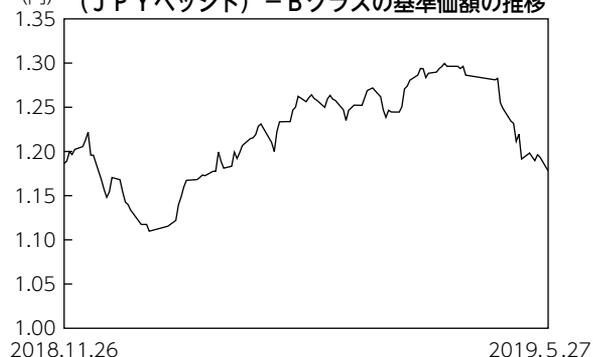
主として円建ての公社債に投資することにより、安定した収益の確保を目指し、短期公社債を中心に投資を行いました。

高配当株戦略指数（円ヘッジ・ベース）の推移



※高配当株戦略指数は、クロッキー高配当世界株指数です。

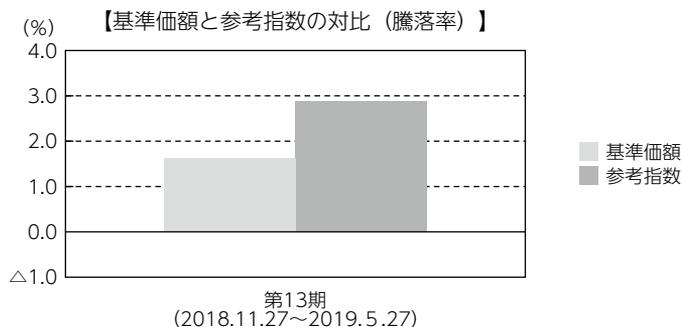
シンコウ・グローバル・エクイティ・ファンド
（JPYヘッジド）-Bクラスの基準価額の推移



※基準価額（分配落ち後）は1口当たりです。

ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の目標となるベンチマークを設けておりません。
グラフは、基準価額と参考指数の騰落率の対比です。



(注) 基準価額の騰落率は分配金（税引前）込みです。

分配金

収益分配金は、年1回の目標額決定時の基準価額に対して所定の率を乗じて得た額を上限として支払います。第13期は1万口当たり251円を分配しました。なお、収益分配金に充てなかった利益は信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

分配原資の内訳（1万口当たり）

項目	第13期
	2018年11月27日 ～2019年5月27日
当期分配金（税引前）	251円
対基準価額比率	2.004%
当期の収益	251円
当期の収益以外	－円
翌期繰越分配対象額	4,035円

(注1) 「当期の収益」および「当期の収益以外」は、小数点以下切捨てで算出しているためこれらを合計した額と「当期分配金（税引前）」の額が一致しない場合があります。

(注2) 当期分配金の「対基準価額比率」は「当期分配金（税引前）」の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

(注3) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後・繰越欠損補填後の売買益（含、評価益）」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「分配準備積立金」および「収益調整金」から分配に充当した金額です。

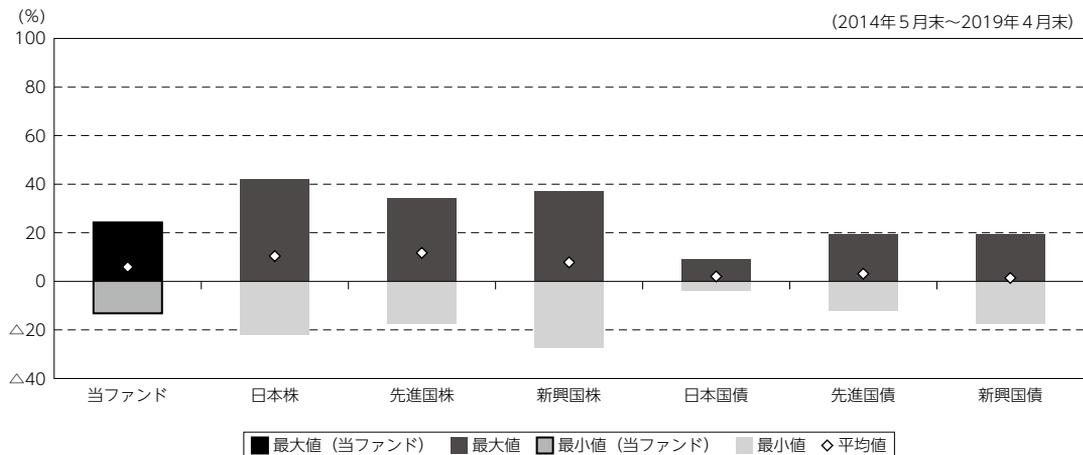
今後の運用方針

- 当ファンド
引き続きエクイティファンド（ヘッジあり）Bを中心に組入れを高位に維持し、収益の獲得を目指します。
- エクイティファンド（ヘッジあり）B
引き続き担保付スワップ取引への投資を通じて、高配当株戦略指数（円ヘッジ・ベース）から得られる総合収益の獲得を目指します。
- 国内マネー・マザーファンド
引き続き短期公社債を中心に投資を行い、安定した収益の確保を目指しますが、市場環境によっては、目標とする運用ができない場合があります。

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／株式	
信託期間	2012年12月17日から2022年11月25日まで	
運用方針	投資信託証券への投資を通じて、日本を含む世界の高配当株投資戦略の運用成果を反映するクロッキー高配当世界株指数（以下「高配当株戦略指数」といいます。）から得られる総合収益の獲得、および年2回の分配実施（実質的な投資元本の払い戻しにより一部または全部の額を充当することができます。）による定期的な投資信託財産の一部払い出しを目的とします。	
主要投資対象	世界高配当株セレクト （目標払出し型）年2回決算・ 為替ヘッジありコース	投資信託証券
	シンコウ・グローバル・ エクイティ・ファンド （JPYヘッジド）-Bクラス	スワップ取引
	国内マネー・マザーファンド	本邦通貨建ての公社債
運用方法	以下の投資信託証券を通じて、高配当株戦略指数（円ヘッジ・ベース）に実質的に投資を行います。 ケイマン諸島籍外国投資信託 シンコウ・グローバル・エクイティ・ファンド（JPYヘッジド）-Bクラス（以下「エクイティファンド（ヘッジあり）B」といいます。）円建受益証券 内国証券投資信託（親投資信託） 国内マネー・マザーファンド受益証券 なお、エクイティファンド（ヘッジあり）Bにおける高配当株戦略指数（円ヘッジ・ベース）への実質的な投資は、ドイツ銀行ロンドン支店を取引相手とする担保付スワップ取引により行います。	
分配方針	分配対象額の範囲は、繰越分を含めた経費控除後の利子・配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。分配金額は、原則として、当ファンドの決算日の直前におけるエクイティファンド（ヘッジあり）Bの分配額に基づく額を払い出すことを目標と委託者が決定します。エクイティファンド（ヘッジあり）Bの分配金は投資収益に基づくものではなく、原則として、1年毎に到来する特定日の純資産価格に所定の分配率を乗じて得た額としてその1口当たりの分配金が決定されます。結果として、当ファンドの分配金は実質的な投資元本の払い戻しにより一部または全部の額が充当されることがあります。留保益の運用については、特に制限を設けず、運用の基本方針に基づいた運用を行います。	

代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位：%)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	24.3	41.9	34.1	37.2	9.3	19.3	19.3
最小値	△13.2	△22.0	△17.5	△27.4	△4.0	△12.3	△17.4
平均値	5.9	10.4	11.7	7.8	2.0	3.1	1.4

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2014年5月から2019年4月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

*各資産クラスの指数

日本株……東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株…MSCIコクサイ・インデックス (配当込み、円ベース)

新興国株…MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債…NOMURA-BPI国債

先進国債…FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債…JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバーシファイド (円ベース)

(注) 海外の指数は為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

※各指数については後掲の<代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について>をご参照ください。

各資産クラスの騰落率について

騰落率は、データソースが提供する各指数をもとに、株式会社野村総合研究所が計算しております。株式会社野村総合研究所及び各指数のデータソースは、その内容について、信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性を含む一切の保証を行いません。また、株式会社野村総合研究所及び各指数のデータソースは、当該騰落率に関連して資産運用または投資判断をした結果生じた損害等、当該騰落率の利用に起因する損害及び一切の問題について、何らの責任も負いません。

当ファンドのデータ

当ファンドの組入資産の内容（2019年5月27日現在）

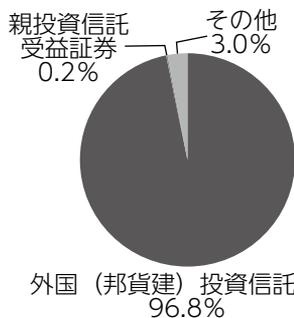
◆組入ファンド等

	第13期末
	2019年5月27日
シンコウ・グローバル・エクイティ・ファンド（JPYヘッジ）-Bクラス	96.8%
国内マネー・マザーファンド	0.2
組入銘柄数	2銘柄

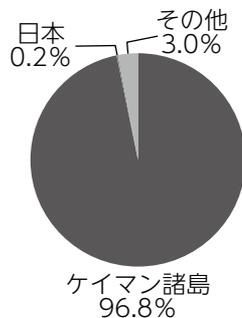
（注1）比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

（注2）組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載してあります。

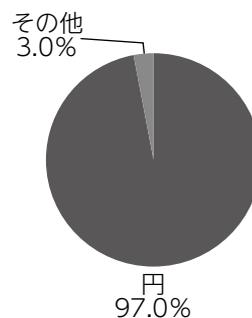
◆資産別配分



◆国別配分



◆通貨別配分



（注1）比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

（注2）国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示してあります。

（注3）その他は、純資産総額から有価証券等を差し引いた数字です。

（注4）比率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示してあります。なお、合計は、四捨五入の関係で合わない場合があります。

純資産等

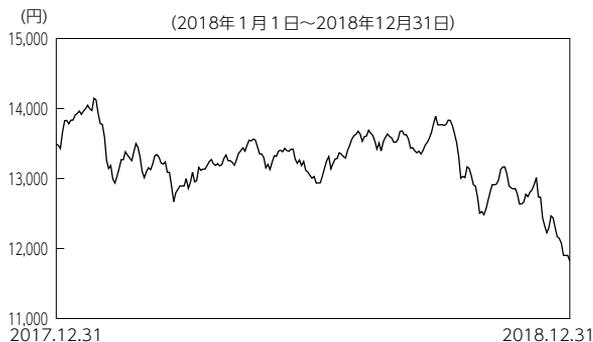
項目	第13期末
	2019年5月27日
純資産総額	474,497,906円
受益権総口数	386,660,118口
1万口当たり基準価額	12,272円

（注）当期中における追加設定元本額は12,820,932円、同解約元本額は37,408,910円です。

組入ファンドの概要

[シンコウ・グローバル・エクイティ・ファンド（JPYヘッジド）－Bクラス]

◆基準価額の推移



◆1万口当たりの費用明細

(2018年1月1日～2018年12月31日)

当該期間の1万口当たりの費用明細については開示されていないため、掲載しておりません。

◆組入上位10銘柄

(2018年12月31日現在)

	銘柄名	業種／種別等	通貨	国（地域）	比率
1	担保付スワップ投資	－	円	ドイツ	99.0%
2	－	－	－	－	－
3	－	－	－	－	－
4	－	－	－	－	－
5	－	－	－	－	－
6	－	－	－	－	－
7	－	－	－	－	－
8	－	－	－	－	－
9	－	－	－	－	－
10	－	－	－	－	－
組入銘柄数		1銘柄			

(注1) 比率は、シンコウ・グローバル・エクイティ・ファンド（JPYヘッジド）の純資産総額に対する評価額の割合です。

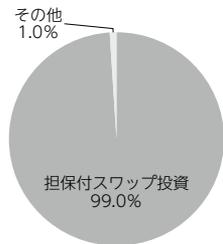
(注2) 上記の表は、ミズホ・バンク（USA）の監査財務書類等をもとに記載してあります。

(注3) 「シンコウ・グローバル・エクイティ・ファンド（JPYヘッジド）－Bクラス」は、「シンコウ・グローバル・エクイティ・ファンド（JPYヘッジド）」の個別クラスとなっております。

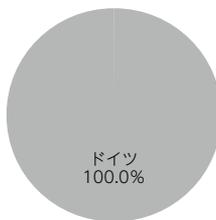
(注4) 国（地域）につきましては発行国もしくは投資国を表示してあります。

(注5) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載してあります。

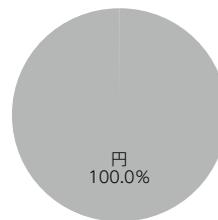
◆資産別配分



◆国別配分



◆通貨別配分



(注1) 資産別配分の比率は、シンコウ・グローバル・エクイティ・ファンド（JPYヘッジド）の純資産総額に対する評価額の割合です。

(注2) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示してあります。

(注3) 国別配分、通貨別配分の比率は、ポートフォリオ部分に対する評価額の割合です。

(注4) 比率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示してあります。なお、合計は、四捨五入の関係で合わない場合があります。

(注5) その他は、シンコウ・グローバル・エクイティ・ファンド（JPYヘッジド）の純資産総額から有価証券等を差し引いた数字です。

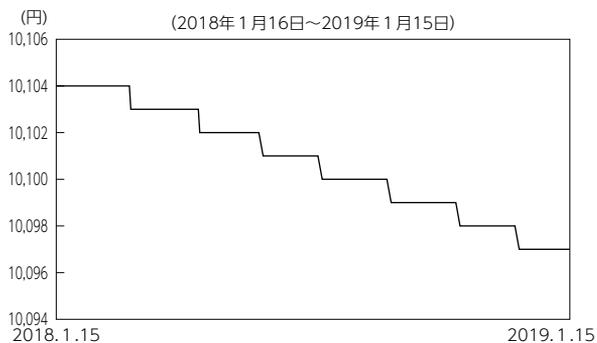
(注6) 「シンコウ・グローバル・エクイティ・ファンド（JPYヘッジド）－Bクラス」は、「シンコウ・グローバル・エクイティ・ファンド（JPYヘッジド）」の個別クラスとなっております。

(注7) 原則として対円で実質的に為替ヘッジを行い為替変動リスクの低減を図ります。

(注8) 上記のグラフは、ミスホ・バンク（USA）の監査財務書類等をもとに記載してあります。

[国内マネー・マザーファンド]

◆基準価額の推移



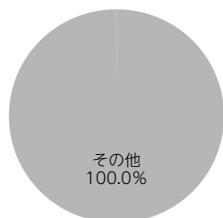
◆1万口当たりの費用明細

該当事項はございません。 (2018年1月16日～2019年1月15日)

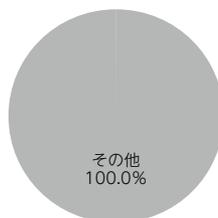
◆組入上位10銘柄

2019年1月15日現在、有価証券等の残高はございません。

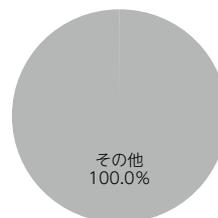
◆資産別配分



◆国別配分



◆通貨別配分



(注1) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注2) その他は、純資産総額から有価証券等を差し引いた数字です。

(注3) 比率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示してあります。なお、合計は、四捨五入の関係で合わない場合があります。

※当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は運用報告書(全体版)をご参照ください。

<当ファンドの参考指数について>

●高配当株戦略指数（円ヘッジ・ベース）

高配当株戦略指数は、クロッキー高配当世界株指数です。

高配当株戦略指数はドイツ銀行グループが開発した『クロッキーモデル』を活用して選定された銘柄の中から、「大型株」「高配当」「上昇余力」に着目し抽出された銘柄で構成された指数です。

円ヘッジ・ベースとは、現地通貨建ての指数に対して、対円の為替ヘッジを考慮して算出した指数です。

<代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について>

- 「東証株価指数（TOPIX）」は、東京証券取引所第一部に上場されているすべての株式の時価総額を指数化したものです。同指数は、株式会社東京証券取引所（㈱東京証券取引所）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利は、㈱東京証券取引所が有しています。
- 「MSCIコクサイ・インデックス」は、MSCI Inc.が開発した株価指数で、日本を除く世界の主要先進国の株価指数を、各国の株式時価総額をベースに合成したものです。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- 「MSCIエマージング・マーケット・インデックス」は、MSCI Inc.が開発した株価指数で、新興国の株価指数を、各国の株式時価総額をベースに合成したものです。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- 「NOMURA-BPI国債」は、野村證券株式会社が国内で発行された公募利付国債の市場全体の動向を表すために開発した投資収益指数です。同指数の知的財産権その他一切の権利は野村證券株式会社に帰属します。なお、野村證券株式会社は、同指数の正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。
- 「FTSE世界国債インデックス（除く日本）」は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。
- 「JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバシファイド」は、J. P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーが公表している新興国の現地通貨建ての国債で構成されている時価総額加重平均指数です。同指数に関する著作権等の知的財産その他一切の権利はJ. P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属します。また、同社は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

(このページは白紙です)

